

瓦版

vol.50

雑感

思文閣美術館 雑とミニチュアのお道具展

最近のお引渡し現場

必要なものを必要な方のもとへ

素直な耳

随想(本を務む)

40代からの子育て

近江グループ
株式会社 山庄

雑感

山内 庄一郎

御簾越しに藤原公任「あなかしこ、このわたり若紫やさぶらう」式部「源氏に似るべき人も見えたまはめに云々」と「紫式部日記」の寛弘五年(一〇〇八)十一月一日の条に書かれており、この時既に若紫の巻が後宮にかなり流布して且つかなり評判になっていたようである。

源氏物語が書かれて今年で千年。これを機に「源氏物語」を読んでみようとい求めたのが新潮日本古典集成一巻から八巻。原文横には部分的に現代語訳が書かれてあり、原文からあまり目をそらさずに読むことが出来、昔言葉が醸し出す雰囲気を出るだけイメージしながら読んでみた。

読み進むうちにふと思ったのが、今の京ことばでならどう表現するのかという素朴な疑問。探せばあるもので、見つけたのが「京ことばで綴る源氏物語」なるCD。移動中の車の中で聴いてみると、やはり分かりやすい。監修は国文学者の中井和子さん。朗読は北山たか子さん。我が地元KBS京都開局50周年記念ラジオ朗読番組として放送されたものを収録したCD。

初巻「桐壺」さわりの部分を、原文/現代京ことばでワンフレーズ(こんなことばを使っているのでしょうか?)毎に対比してみます。

[原文]

いづれの御時にか、女御、更衣あまたさぶらひたまひけるなかに、いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり。

(現代京ことば)

どの天子さんの御世のこととござりましたやるか。女御や更衣が大勢待っといやしたなかに、そないに重い身分の方ではござりまへえで、それはそれは時めいといやすお方がござりました。

[原文]

はじめより我は思ひ上がりたまへる御かたがた、めざましきものにおとしめ嫉みたまふ。

(現代京ことば)

はじめから、ご自分こそはと、自惚れをもっといやすお方々は、出すぎた女やと、さげすんだり嫉んでおいでぞす。

[原文]

同じほど、それより下藤の更衣たちは、ましてやすからず。

(現代京ことば)

同んなじぐらいやら、もっと下の更衣たちは、なおさら気が休まりまへん。

[原文]

朝夕の宮仕へにつけても、ひとの心をの

み動かし、恨みを負う積りにやありけむ、いとあつくなりゆき、もの心細げに里がちなるを、いよいよあかずあはれなるものに思ほして、人のそしりをもえ憚らせたまはず、世のためしにもなりぬべき御もてなしなり。

(現代京ことば)

朝晩の宮仕へのたんびに、人さんの気いばかりもまして、恨みをうけたのがつもりつもったのどっしやろか、病気がちで、心細そうに、お里にばかり下らしますので、余計ふびんにお思い遊ばして、人のそしりもお構いやさんと、このことが世の例しにもなってしまうおもてなしでござります。

[原文]

上達部、上人なども、あいなく目を側めつつ、いとまばゆき人の御おぼえなり。唐土にも、かかる事の起りにこそ、世も乱れ、あしかりけれど、やうやう天の下にもあぢきなう、人のもてなやみぐさになりて、楊貴妃の例も引き出でつべくなりゆくに、いとはしたなきこと多かれど、かたじけなき御心ばへのたぐひなきを頼みにてまじらひたまふ。

(現代京ことば)

上達部や、殿上人なども、どうしようものう、つい目をそむけて、「ほんまに、みてられへんようなご寵愛ぶりやなあ。もろこしでも、きっとこないなことがもとで乱がおこり、困ったことになったんやがなあ」と、時がたつにつれて世の中の人も苦々しう、なやみの種にするよう

になり、楊貴妃の例しも引かれたりして、ほんまにはしたくないことばかり多かったのどすけど、有り難いご寵愛の、この上ないのだけをたよりに、殿上のおつき合いをしといやすのでござります。

[原文]

父の大納言は亡くなりて、母北の方なむ、いにしへの人のよしあるにて、親うち具し、さしあたり世のおぼえはなやかなる御かたがたにもいたう劣らず、なにごとの儀式をももてなしたまひけれど、とりたてて、はかばかしき後見しなければ、ことある時は、なほより所なく心細げなり。

(現代京ことば)

父の大納言は亡うならはりましたが、母北の方が、旧家の出エの由緒あるお人で、両親がうち揃うて、世間の評判も華やかなお方々にも見劣りせんと、どんな儀式もきちんとおつとめやしたけど、これというしっかりした後ろ盾がござりまへんので、何か事のある時は、やっぱり拠り所がのうて、お心細うでござります。

比べてみれば理解度は断然(現代京ことば) > [原文]。高校時代に習って以来の源氏物語。まずはCDを聴きながら現代京ことばを読み、原文を読み返す。これを繰り返して年内に五十四帖読破出来ますや否や?興味津々なり。

希望のお客様は!!

デザイン無料キャンペーン及び設計・現地見学会 ご希望の方は下記アンケートにお答え頂いた上、FAXにてご返送下さい。

氏名:

住所:

TEL:

FAX:

ご希望の内容

- ①設計・デザイン無料キャンペーン
- ②新築物件現地見学会

amasyo 株式会社 山庄
TEL:075-813-5800(代)
FAX:075-811-5550

瓦版

企画及び発行所

近江グループ
株式会社 山庄

〒604-8811

京都市中京区壬生賀陽御所町77-1 山庄ビル2F

TEL 075-813-5800

FAX 075-811-5550

E-mail office@amasyo.net

URL http://www.yamasyo.net

愛(め)でたきもの 雑とミニチュアのお道具展

2008年 2月23日(土) ~ 4月6日(日)



豆印籠

手作り講習会

日時:2008年2月29日(金) 午後1時半より

「古裂で作る押し絵の雑の小箱」

講師:高山順子先生(古裂細作家)

定員:15名 予約制

※予約制 2月1日より予約受付開始

詳しくはお電話にてお問い合わせ下さい。
(TEL 075-771-7771)

2003年・2007年の春、雑の節句にちなんだ企画展として好評頂いた「雑とミニチュアのお道具展」を今春も開催いたします。

古来より愛され、人々の心を捉えて離さないミニチュアの魅力は、その愛らしさはもちろんですが、実物以上の繊細さ・緻密さを兼ね備えている点にあります。そこには作り手たちの心意気や高い美意識が随所に息づいています。

本展では豆雑と雑道具を中心に、関西特有の雑道具(お台所道具)、貝合せ、お茶道具、豆人形や豆印籠に加え、『源氏物語』千年紀に合わせた、『源氏物語』にまつわるミニチュア作品など、約1000点を一堂にご紹介します。

“掌中のたからもの”雑とミニチュアのお道具に、是非心なごむひとときをお過ごしください。

□開館時間:午前10時~午後5時

□休館日:月曜日(但し、3/3は開館)

□入館料:一般700円(550円) 高大生500円(400円)

小中生300円(200円)

()内は団体10名以上。前売料金

思文閣美術館

〒606-8203 京都市左京区田中関町2-7

TEL.075-751-1777/FAX.075-762-6262

URL http://www.shibunkaku.co.jp/artm/

「最近のお引渡し現場」



新築工事 (H様邸)

場所:京都市左京区

平成20年2月お引渡し

★ アンケートにお答えいただいた方には、この情報誌を毎月郵送致します。

氏名

性別

生年月日

住所

TEL

FAX

メールアドレス

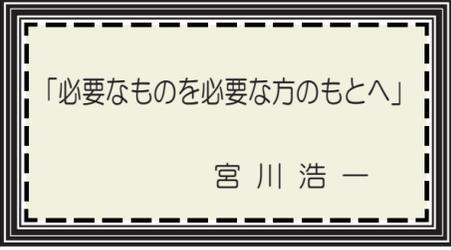
職業

★ 今後、あなたの知り得たい情報は何ですか?

- 1.建築(住宅)に関する情報
- 2.建築(インテリアデザイン)に関する情報
- 3.外食に関する情報
 - ・和食
 - ・洋食
 - ・中華
 - ・その他()
- 4.文化、歴史に関する情報
- 5.その他

()

amasyo 株式会社 山庄
TEL:075-813-5800(代)
FAX:075-811-5550



「必要なものを必要な方のもとへ」

宮川 浩一

2015年11月、宮川浩一が「必要なものを必要な方のもとへ」を著した。

昨年の瓦版Vol. 45で「お受験」というテーマで書かせていただきました。その中で登場した我が娘、そして私の受験結果は別として、親子共やっと全日程を終えほっと一息ついています。受験とはあまり（全く）縁がなかった、そして「お受験」には強硬な反対派であった私にとっていろいろの意味で大変良い経験になりました。

小学生から大学生まで、ほぼ「野球」以外の事をしたことがなかった私にとって、想像以上に様々な発見をさせてくれた数年でもあったわけです。

中でも重大な発見は、例えば野球をする事に、受験をする事に、必要以上に確かな意味や価値を求めすぎると、話がとつてもおかしな方向に進んでしまうという事です。要するに「なぜ野球がしたいか」「なぜ受験をするのか」というような類の事です。これをし出すと、ただの野球や受験が、将来がどうかこうとか大変ややこしい話になりだします。

多分、単純に「今の自分がどこまで出来るかへの挑戦」みたいな、少し肩の力を抜いた程度でちょうど良いのかなと感じた次第です。

これは会社でも同じように感じます。あまり理念や社是に必要以上に意味を持たせようとすると、やはりおかしな方向に進んでしまいます。本来の純粋な理念に、変な拡大解釈や曲がった理解が入ってきてしまうのでしょうか。

例えば、世間を騒がせている食品偽装表示問題。もしかすると、最初はまだまだ食べられる商品を捨ててしまう事が本当に勿体無かったのかもしれませんが、今ほどコンプライアンスについてうるさくない時代は、何とか節約してお客様に喜んでもらおうと努力をしていただけなのかもしれません。それがいつか、その節約がとても儲かる事に気付き、解釈が変わってしまったのかも。

お客様には関係のない経営者の都合の良い方向の解釈に。

とても整理整頓された理念や社是があるのと、それをよりどころとして拡大解釈し、自分を正当化しようとしだす傾向があるのでしょうか。

2015年11月、宮川浩一が「必要なものを必要な方のもとへ」を著した。

私の人生の師であり、人生の多くの部分で影響を受けている方、S、T師。師の話の中でずっと気になっていたのですが、今ひとつ意味が分からずにいた話があります。それが最近やっと分かりかけてきました。少し人物を想像していただきやすいように説明しておきますと、師は古美術、主に古書、軸、屏風を扱っておられる業種であり、国内では業界有数の企業に育て上げられた方です。まさしく機関車の如く、会社と自分は一心同体です。80歳を超えられ、

さすがに社長業は継承されておられますが、今尚現役で会社を引っ張っておられます。一見誰の言う事も聞かず、突っ走っておられるかのような凄みと威圧感と決断力をお持ちの方ですが、実は全く逆で、お客様の話、取引業者、社員さんの話は感心する程よく聞かれます。

なんとなくイメージしていただきましたでしょうか？

ここからが私が最近分りかけて来た話です。師が商談に行かれる時は、「買ってください」「いかがですか」ではありません。「これは絶対に持っておいください」です。セールストークだとか、テクニックではありません。いわゆる直球1本です。変化球なし。

なぜそれ程ストレートになれるのか。お聞きした事があります。師の答えは「宮川君、商売が好きで一生懸命勉強して、お客様が好きで一生懸命勉強していたら、商品を見ていかに絶対人にこの商品を持ってもらわないといけない人の顔が浮かぶんや。本当に持ってもらわなければならない人に持っていただくように努力しているだけや」でした。

どうも私の「商売」の概念とは違いました。物を売るとは、どううまく長所を説明して、うまく理解いただいて、又は買いやすさ、システムを構築してどうにかして当社を選択いただくか、みたいなイメージがあります。皆様はいかがでしょうか。

師の話は弊社の業界で言いますと、さしずめ「貴方の満足する家は、私以外では建

てられません」と「本心と真心」で言い切っていて、お客様にご理解いただいている姿です。余程お客様を理解し、お客様を愛し、努力し尽くした境地でないと出来る事ではありません。テクニックとしては言えるかもしれませんが、本心・真心で言い切れるものではありません。

2015年11月、宮川浩一が「必要なものを必要な方のもとへ」を著した。

前述の通り最近この言葉が少しだけ理解できたような気がします。大量生産、大量消費も必要かもしれません。そして何より企業は利益を出し、お客様の満足を高め、社員さんの生活を豊かにし、社会に利益を還元していかねばなりません。その事と大量生産、大量販売、大量消費とは実は全く関係のないものだと思最近感じています。各社が、各業界が「自分たちの商品を本当に食べてもらわなければならない人へ」、「自分たちの商品に本当に住んでもらわなければならない人へ」お届け出来る様勉強し、努力し、何よりもお届けするお客様を理解出来たならば、無駄のない企業、社会を創れると感じています。異論はあろうかと思いますが、少なくとも弊社はそうあろうと考えています。大量無差別販売、大量廃棄の何でもありの時代はそろそろ終わるのでしょうか。

皆様をご存知でしょうか。わが国の食品自給率は40%とされています。日本は食料危機だとか。

ある講演会で学んだのですが、残りの60%は当然輸入になるわけですが、金額にすると5兆円程度だそうです。しかし、実の

2015年11月、宮川浩一が「必要なものを必要な方のもとへ」を著した。

礼の仕方から足運びまで、細かく指導を受ける。何より挨拶の作法を徹底して教わるので、礼節が自然と身についてくれれば嬉しい。お稽古が早く終わった時は、隣の通りの古門前通りに面して建つ実家の会社を訪ねる。会長職にある父が孫の着物姿に目を細め「又よってや。」と喜ぶので、娘も「今日はじいじとこよらへんの？」と毎回聞いてくる。

私も日本舞踊はお稽古の一つとして習っていた。小学校の帰りに、2歳歳の姉について先生のお宅へ行っていた。ただ姉が先生宅について、直に一階にあるお手洗いに行き、二階にあるお稽古場には上がらずに「帰ろう。」と言うので：えーお稽古は一。：と思いつつ、姉について先生宅を後にした覚えが多々ある。家まではバスと電車を乗り継いで30分はかかるので、多分学校でお手洗いに行きそびれた姉が、先生宅で用を済ませると言う行動にでたのだろう。最後は踊りのお稽古中に何故か眠くて、何度かあくびをしたら、たまたまその時は母が付いてきていたらしく、「やっぱりこの子は疲れやすいからむりやなー。」と言うせりふで敢無く、そのお稽古は幕を閉じた。

その後10代半ばに今度は母のお知り合いの先生が自宅で教えて下さり、姉妹で習う事になる。金沢から月に一度先生がみえると、4・5日通してのお稽古となる。学校から帰ると浴衣に着替え、離れにある和室でお稽古をした。

当時私は若手の歌舞伎役者に憧れの人がいて、同じ流派でもあり、先生が東京での家元稽古の折に役者さん達と親しくされて

40代からの子育て

山内 早苗

「早よ足袋はいて。」と私。「待つてよー、彩そんなに早くできひんもん。」着物をきせて帯を締め、いざ出発。今日は日本舞踊のお稽古の日。学校から帰った娘におにぎりを食べさせて、大急ぎで新門前にある先生宅に向かう。小さな頃から着物が大好きで二歳で参った七五三さんの時も、結局朝から夜までずっと着物を脱ぎたがらずにいた。

早くに日本舞踊のお稽古をと思ってしたが、幼稚園で開講されているバレエのお稽古がしたくて、半年ほど「彩バレエのお稽古がしたい。」と言い続け、根負けして先にバレエを習わせたいた。

舞いの先生からは日本舞踊をするならバレエを止めてきて欲しいと言われていたので、もう無理かなーと思っていたが、去年の夏に舞の会があるとお誘いを頂いて、娘より少し大きなお姉さん達の舞を見てから、「彩も習おうかなー」と言い出し、バレエを止めないと無理だと言う私に「うん。もう止める。」ときっぱり答えたので、チャンスとばかり時を置かずにお願いに上がり、12月からお世話になった。

随想

（本を務む）

山内 徳三郎

来年2009年（平成21年6月）には、大本山妙心寺開山無相大師六百五十年遠諱が厳修されます。その佳節を迎え、法味深重に拝察を申し上げます。

次第でございます。「請うその本を務めよ」でありまして、その偈語は、「請うその本を務めよ」であります。請い願はくは、「その本をつとめて下さい」ということであります。

之を今様にふえんしますと、本心に忠実であれ、そして本心を鍛え、磨けるだけ磨け。（武者小路実篤）今から六百五十年前と申しますと、室町時代に先き立つ南北朝時代であります。

何卒無事ご円成の程を冀望申し上げます。

因に正法大本山妙心寺微笑会会長稲盛和夫様小生副会長

（完）

素直な耳

ところこの内約半分が、外食産業やスーパーなどで、賞味期限がどうだとか、鮮度がどうだとかの理由で食べられずに廃棄されているのです。まだ十分食べられるのに、です。単にお金をかけて輸入をして、お金をかけて捨てているだけです。

我が国は本当に食糧危機なのでしょうが。先ほどの話になりますが、もし「本当に食べたい人のもとへ、食べていただきたいものを少し時間をかけてでも届ける」食品業界本来のストレートが投げられたら、自給率は格段に上がるでしょうし、それ程業界が低迷するとも思えません。間違ってはいけないのは、業界は低迷しませんが不要な業態がなくなるのは事実です。

個人的にはこれからの日本には、死語になりつつある「売り切れ」の完全復活が鍵だと考えています。

町を見渡してください。何処もかしこも24時間営業。どのお店も「売り切れ」なんて縁のない品揃え。拳句の果てが廃棄処分。

もし皆で売る分だけを揃えて「売り切れ」で採算を考え出す事が出来たら。要するに時代の逆戻りですが、少しは静かな夜と豊かな心が持てるような気がします。

今は理想論と言われるかも知れませんが、これからの大きなキーワード「リサイクル」や「節約」も勿論必要ですが、その前に「必要なものを必要な人のもとへ」という簡単であり、しかも本質を皆で買けば、会社もお店も国も個人も共に豊かに成長するかも知れません。

2015年11月、宮川浩一が「必要なものを必要な方のもとへ」を著した。

いたので、お稽古の度に憧れの役者の話が聞きたくて、ワクワクしていた。大学生になり金沢で開催される先生の大きな舞台に出る事になり、姉妹で一週間程先生宅に寝泊りをしてお稽古を付けて頂いた。同じお稽古場で金沢在住のＴちゃんは一。人っ子で、私たち姉妹と仲が良くいつも行動を共にした。朝早くから起きて、庭にあるお社を先生と回って拝み、今度は家の中にある舞台をぞうきんがけて回る。朝食のあと少しお稽古をつけて頂いて、次々に見えるお弟子さん達のお稽古をずっと見学し一日を終える。いつも姉妹とＴちゃんの4人で夕方になると、浅野川の辺にある喫茶店に行き、コーヒーゼリーを食べながら、長い一日を終えた安堵に弾けるように皆で笑った。

その二年後に姉は嫁ぎ、私もまた姉が嫁いだ翌年には実家を離れた。思えば姉妹で過ごした一番思い出に残る時期であり、今も金沢には甘い思い出がある。

「彩かわいいよー。」着物姿で踊る様子を、夜中の電話で息子に伝える。バイト以外の週の4日を現代美術の画廊でインターンシップとして学ぶ息子は、毎日色々な作家やパイヤーとの出会いで新鮮らしく、「今の顧客はドバイやで。」と、熱く中東の顧客の話を語る。半分夢心地の私は生半可な返事をしては「ママ眠いにゃろ。」と息子に鋭い指摘を受けつつ、卒業決定と同時に仕送りを止めると言う主人と、ビザの申請結果を待ちつつ、あと一年どうしてもロンドンで学びたい事が一杯あると切望する息子に、どっち付かずの態度をとっている。

「仕送りがなくてもバイトで生活は出来る。今帰るのと一年後とは全然違う。この一年、こっちで色んな人と繋がりを持つ事がきっと僕の大きな財産になる。帰ったらもちろん一生懸命働いてパパには恩返しするよ。」私には滔々と語れても、長い間自分の意思で留学もさせて貰い、仕送りを受けている主人にはどうしても話しづららしい。

先日お知り合いで、テレビでも人気の料理研究家であるK氏が親しい方達とロンドンに立ち寄られた際、案内役にと息子に連絡した所、2日間の滞在中に昼食2回とディナーまでご馳走になったと大喜びで電話をして来た。

今ヨーロッパでは、東洋美術といえぼどうしても中国が人気で、息子が学んだサザビーズでも日本部門が撤退してしまった。「今まで色んな留学生や現地の日本人に会ったけど、僕みたいにイギリス人と同レベルで会話が出来て、日本の歴史が大好きで良く知っている人間って、そんなにいいひんねん。だからこそ本当の日本の良さや素晴らしさを伝えていかなあかんねん。今回、ほんまに博学な人達に色んな話を沢山聞けたし、勉強になったわー。何処の店も最高に美味しかったし、もう一年ぐらい何にも食べんでも、生きていけそうや。僕、日本と世界の架け橋になりたいねん。」興奮冷めやらぬ息子が電話の向こうで熱く語った。

檜田 勉